

薪ストーブは、あくまで補助暖房で時々調理に使う程度のものであるが、何度も繰り返しになるが、それでもつくづくあつて良かったと思う。ただ補助暖房といっても一冬で使う薪の量はおおよそ三、四立米が必要で、ちょうど長い軒下に収まるくらいの分量になってしまう。最初の年は家を建てる時にやむなく切った木が使えると思っていたのだが、そう甘くはなかった。薪ストーブを買った店に言わせると、薪は乾燥させなければタールが出てストーブを痛めるとのこと。それも、木の芯まで乾燥させるには割った状態で乾燥させなければならぬようだ。薪を買わせる口実かと勘ぐったりしてもせつかくのストーブを痛めてしまったては元も子もないので断念することにした。そのかわりその店から薪を買ったら三立米で七万円くらいになった。薪も結構な値段がするのだ。そうとわかれば、翌年は自分で薪をつくるしかならうと思つて頼みの町内のMさんに相談してみた。まずはチェーンソーでストーブに入れられる長さに丸太を切つて、それから斧で割り、半年から一年乾燥させてようやく燃やせる薪になるとのこと。ただし、乾燥させすぎると木の油も飛んでしまつて火持ちが悪くなるようだ。木の種類によつて燃え方も違ふらしく、薪にしようとした白樺は、火付は良いが火持ちが言われないと言われてしまった。ナラの木は良いようだが、シイタケのホダ木に適しているので燃やしてしまうのはもったいないとも言われた。木を薪にするといつても奥が深い。

さて、薪にするためにはまずチェーンソーが必要ということだが、やたらハードルが高くなつてしまった。確かに家を建てる際に切った木の太さからするとノコギリでは日が暮れるか、腕が疲れて使い物にならなくなるのは目に見えていた。さてどうしたものか。Mさんのアドバイスは的確で「石塚さんはチェーンソーを使うのは初めてだと思つたので、エンジン式じゃなく電動式にした方がいいね。替え刃もついて手頃な値段のものがあるので、それにしたら。」とのこと。さつそく勧められたものを探しにホームセンターに行つたら、いろいろ種類のチェーンソーがずらつと並んでいて、さすがここのホームセンターは違ふと感じ入つてしまった。お目当のものもあつて、ヘルメットとゴーグルと一緒に買って来た。戻つてさつそく開封すると、素人にはちよつと尻込みするような立派に凄みのあるチェーンソーだった。

付属のマニュアルを見ると、ほとんどが注意事項で特にチェーンソーが木に跳ね返されるキックバックというのが怖かった。これまでも仕事で行つたまちで、チェーンソーで大怪我をしたとか、死んだ人がいるという話を一度ならず聞いていたのでなおさらだ。恐る恐るスイッチを入れて見るとエンジン式のチェーンソーのような爆音はしなかったが、それでも刃の並んだチェーンが高速で回のを見ると、本当に自分が使えるのか正直腰が引けた。でも、そう言つてももしようがないので試しに切つて見ることにしたが、血しぶきのように木の切り屑が飛び散るのでアドレナリンがドバツと出た。その勢いで次を、そして次をと切り進むとちよつとした快感に変わつて来た。

